

岡山孤児院跡

設置位置		表示内容
所在地	岡山市中区門田屋敷1-3 岡南キリスト教会	
		<p>岡山歴史散歩 - 岡山の歴史を知る -</p> <p>岡山孤児院跡</p> <p>「児童福祉の父」と言われた石井千次が創設した、日本で最初の孤児院です。</p> <p>明治20年（1887）、尊徳2名と共に岡山市門田屋敷大通の三友寺の一室を借り受け、「日本孤児教育会」を設立し、後に「岡山孤児院」と改称しました。以降、災害地などから孤児が集まり、設立20年目には1,200名を収容する大規模な孤児院となりました。明治45年に石井の療養である宮崎県宮島へ本拠地が移転するまで、明治天皇・皇后両陛下をはじめ、多くの賛助者の協力によって事業が続けられました。</p> <p>情報提供：日本キリスト教団 岡山教区 岡山市</p>

中世山陽道

設置位置		表示内容
所在地	岡山市中区国府市場99-5	
		<p>凡例</p> <p>✕ : 設置位置</p>
		<p>岡山歴史散歩 中世山陽道</p> <h2>中世山陽道</h2> <p>古代、備前国の船着は、現国府市場に立つ国府宮¹ 辺りにあったと推定されています。一方、当時の山陽道は都と大宰府を結ぶ大船通として瀬原曾根路に併行して、後津藩中から津定で尾川を跨り津藩へと通じながら、国府への連絡道として津定から国府へ迂回する支路が分岐していました。</p> <p>中世になり、かつての山陽道は坂上橋から橋落ちし、ルートも様々変わりましたが、国府への支路は残り、中世山陽道の一節となりました。</p> <p>当地を通る中世山陽道は、現在の備前大橋² 辺りで古井川を巻く道で、道々ルートを変えながら古津藩へ入り、さらに南下して高島公民館³ 館前を通る、三軒返し(西返し)で尾川を渡り、平田山陽道の船着⁴ へと通じていました。</p> <p><small>1 国府宮 岡山市東区国府宮1-1-1 2 備前大橋 岡山市東区大橋1-1-1 3 高島公民館 岡山市東区高島1-1-1 4 船着 岡山市東区船着1-1-1</small></p>

伊木家下屋敷長屋門

平面図		表示内容
所在地	岡山市中区小橋町1丁目3-7付近	
<p>凡例 ✕ : 設置位置</p> <p>御成川河川公園 土地改良会館 林ビル 中納言クリエック</p> <p>内田百閒記念碑園</p> <p>30m</p> <p>PASCO IPC 小橋町1</p>		<p>岡山県史跡 城下町を歩く</p> <p>伊木家下屋敷長屋門</p> <p>岡山藩の藩政の発展を、中納言の屋敷の長屋門です。</p> <p>下屋敷とは、いづれの邸のことで、伊木家は岡山藩のこの地に下屋敷と称された屋敷、中納言の邸にこの下屋敷を併置していましたが、藩政から中納言の屋敷にも下屋敷と称された下屋敷を設け、家紋を在りまわけていました。</p> <p>長門では、昭和20年6月の岡山空襲による焼失がはかっています。</p> <p>岡山県史跡調査委員会</p>

備前八幡宮

平面図		表示内容
所在地	岡山市中区八幡東町1付近	
<p>凡例 ✕ : 設置位置</p>		<p>備前八幡宮</p> <p>岡山藩の藩政の中心地、備前八幡宮は、寛文5年(1765)に大改修の際に焼失を免れ、大規模の再建を目的として創建された。当時は、高島が広がることでの再建が困難な状況にあり、高島を避けて、高島公園の南側に再建された。寛文5年(1765)に、岡山藩の藩政の中心地として、再建された。寛文5年(1765)に、岡山藩の藩政の中心地として、再建された。</p> <p>その後、寛文5年(1765)、4代藩主高橋元忠が、岡山藩の藩政の中心地として、再建された。寛文5年(1765)に、岡山藩の藩政の中心地として、再建された。</p>

岡山藩医学館・大病院跡

平面図		表示内容
所在地	岡山市中区東山1丁目1 東山公園	
<p>凡例 ✕ : 設置位置</p>		<p>岡山藩史散歩 — 上りの歴史を知る —</p> <p>***** H I M M A K U D S H A A *</p> <h2>岡山藩医学館・大病院跡</h2> <p>明治3年(1870)4月、岡山藩は医学の進歩を促すため、備前国上總郡門田村福山の藩の利尻院と台領寺跡(現岡山市中区東山公園)に医学館及び大病院を開設しました。</p> <p>明治維新直後の混乱期において、任由安宅、岡山藩館、新本館、石改館からの売却による雑居たる考えと献身的な努力により、存続の危機を乗り越え、医学校・病院の礎が築かれました。</p> <p>その後、幾多の変遷を経て大正10年(1921)4月、豊田村(現岡山市北区豊田町)に岡山医学専門学校として移転し、大正11年(1922)4月に岡山医科大学、昭和24年(1949)の学制改革により岡山大学医学部及び病院となり、現在に至っています。</p> <p><small>(掲載写真：豊田町「岡山医学館跡」)</small> 岡山市</p>

富山小学校建学之地

平面図		表示内容
所在地	岡山市中区福泊342-1 JA岡山富山支所	
<p>凡例 ✕ : 設置位置</p>		<p>岡山歴史散歩 ー 上・中・西編 ー</p> <p>富山小学校建学之地</p> <p>＜沿革＞ 明治15年（1882年） 上郡郡富山村高富小学校として当地に創設 明治23年（1890年） 上郡郡富山村高富小学校と改称 大正8年（1919年） 旧高富小学校代用附屬小学校として利用 昭和16年（1941年） 上郡郡富山村国民学校と改称 昭和22年（1947年） 上郡郡富山村立富山小学校と改称 昭和27年（1952年） 岡山市に編入し、岡山市立富山小学校と改称 平成24年（2012年） 現在地（中区福泊233）へ移転</p> <p>（資料提供：富山小学校建学之地記念館岡山県立岡山市立岡山市</p>

祇園大樋

平面図		表示内容
所在地	岡山市中区祇園596付近	
<p>凡例 ✕ : 設置位置</p>		<div style="text-align: center;"> <h2>祇園大樋</h2> </div> <p>この樋は、土木建築の天作として知られた津田宗忠が評新田などの新田開発を行った際、大量の灌漑用水の必要性から、元禄5年(1692)、水の長孫のもとに築造されたと考えられています。その巨大さから、長瀬味噌の地名に因んで「長瀬大樋」と呼ばれるようになりました。</p> <p>祇園大樋とは、通称で地蔵(地蔵)樋、石樋、天樋、八幡樋、長瀬御年水樋門、外注樋(石門)と呼ばれる6樋門の総称です。昭和36年(1961)からの改修工事で地蔵(石樋)樋と石樋を1樋の樋としたため、現在は5樋門となっています。</p> <p>大樋が供給する用水は、京東平野一帯の水田の灌漑のために止まらず、かつては御津園(現京東園)へも供給され、灌漑以外の生活排水としても利用されるなど、幅広く活用されながら現在もその重要な役割を担い続けています。</p> <p><small>〔情報提供〕 岡山県立歴史民俗学館グループ 岡山県</small></p>

大師駅跡

平面図		表示内容
所在地	岡山市中区関279付近	
		<p>大師駅跡</p> <p>このあたりが大師駅跡です。開設当時は「藤原駅」その名(藤原駅)と呼ばれていた。文正5年(1911)10月7日、岡山市の中心地である「口口口口口」への通車が実現したため、「大師駅」と改称されました。</p> <p>この「口口口口口」は、11.4kmと約40分がかりで、カタコトと通車のなかでものこりに残っていました。この通車計画は、その後の通車計画のなかで、近大寺古墳(古墳)の跡に、通車の跡跡の上で敷設が図られていた。敷設が中止された今も、通車の跡跡が残り、通車跡跡(古墳)の名で残っています。</p> <p>この「口口口口口」は、11.4kmと約40分がかりで、カタコトと通車のなかでものこりに残っていました。この通車計画は、その後の通車計画のなかで、近大寺古墳(古墳)の跡に、通車の跡跡の上で敷設が図られていた。敷設が中止された今も、通車の跡跡が残り、通車跡跡(古墳)の名で残っています。</p> <p>この「口口口口口」は、11.4kmと約40分がかりで、カタコトと通車のなかでものこりに残っていました。この通車計画は、その後の通車計画のなかで、近大寺古墳(古墳)の跡に、通車の跡跡の上で敷設が図られていた。敷設が中止された今も、通車の跡跡が残り、通車跡跡(古墳)の名で残っています。</p>

玉井宮東照宮本殿

平面図		表示内容
住所	岡山市中区東山1丁目3-81	 <p>岡山歴史散歩 ーまじの歴史を知るー</p> <p>玉井宮東照宮本殿</p> <p>この東照宮は、岡山城ならびに城下町、また岡山の政治の中心として、中興味方によって日光東照宮から勧請されたものです。社殿名當にあたっては、徳川幕府の作事方総大工であった木原重光が人工神楽に、岡山藩の作事方総大工であった横田屋利右衛門が小工に重かれたことから、岡山藩を祀る玉井の東照宮と名づけられ、現在に至ります。</p> <p>昭和20年（1945）6月29日の岡山空襲では、焼夷弾の被害を受けたものの焼失せず、岡山市内で唯一、空襲の被害を受けながらも江戸時代の木造建築が震災遺構として残る場所となりました。</p> <p>平成元年（1989）1月31日本明に不慮の火災により、幣拝殿・神楽所・社務所・参集所などを焼失しましたが本殿は残りに残り、平成12年（2000）には県指定重要文化財となりました。</p> <p>撮影写真：玉井宮東照宮 岡山府</p>
地番（公図）	岡山市東山1丁目1099番地	
 <p>凡例 ✕ : 設置位置</p>		

喜兵衛様祭祠堂・墓所

平面図		表示内容
住所	岡山市中区土田997付近	 <p>岡山歴史散歩 一歩の歴史を知らず</p> <p>喜兵衛様祭祠堂・墓所</p> <p>この場所から西側約50mの場所に喜兵衛様祭祠堂、北側約150mの場所に喜兵衛様とその家族の墓所があります。</p> <p>江戸時代の岡山地震による大災害の際に、幕府から厳しい年貢の取り立てがありました。その際に新しく総代表に選ばれた喜兵衛様が自決を行うことで、年貢の免除が行われました。</p> <p>当地区では土田村の大人として現在まで語り継がれており、現在も住民、子ども会が祭祠堂と墓所の清掃やお供えを行っています。</p> <p>【情報提供：土田町内会】</p>
地番(公図)	岡山市中区土田1111番、1112番	
 <p>凡例 ✕ :設置位置</p>		

三幡轻便鉄道線路跡

平面図		表示内容
住所	岡山市中区平井6丁目3-13付近	<div data-bbox="1464 405 1783 1279"> <p>岡山歴史散歩 一まちの歴史を知る</p> <p>さんぽんぽんぽんてつどうせん 第2 三幡轻便鉄道線路跡</p>   <p>三幡轻便鉄道は大正4年(1915)8月11日に運行が開始されました。かつて、倉安川交差点内に倉安川にかかる鉄橋があり、左下の写真は鉄橋を渡る三幡轻便鉄道を撮影したものです。</p> <p>最初は、海の玄関口と呼ばれていた児島湾に面した三幡港から荷物を運び、主に工場へ石炭や女工さんを運ぶために貨車と客車の混合列車を走らせていました。さらに、大正12年(1923)2月5日に國清寺まで延伸され、次第に観光や釣り客にも人気となりました。一時は年間10万人を超える人々の生活の足として利用されていたそうです。</p> <p>しかし、昭和6年(1931)に鉄道用地の主要部分が岡山市の都市計画道路(現在の岡山主野線)に飲み込まれることとなり、同年6月30日に三幡轻便鉄道は線を閉じ、わずか15年10ヶ月余りの短命に終わりました。</p> <p>右下の写真は、昭和48年頃に倉安川交差点付近を撮影したもので、取り壊された鉄橋の橋台が写っています。</p> <p>©大分県立総合研究施設 三幡轻便鉄道 1994年10月発行 <small>(佐藤隆雄・三幡轻便鉄道)</small> <small>1994.11</small></p> </div>
地番(公図)	岡山市中区平井五丁目16番5	
 <div data-bbox="273 1141 600 1264"> <p>凡例</p> <p> : 設置位置</p> </div>		

倉田新田と沖新田

設置位置		表示内容
所在地	岡山市中区桑野715-2	 <p>倉田新田と沖新田</p> <p>倉田新田 寛文7年(1679)、藩政として初めて干拓されたのが倉田新田です。大洪水に伴う農耕地の復旧や灌漑設備の構築を立て直ったとされた理由が、福永・延山氏族に新田開発を奨励しました。かんがい用水に設備を整えていたため、古井川から水を引く。岡山城下を流れる福河川に合流する倉田川を開闢しています。この川は農圃用の運河としても利用できるように掘られ、古井川筋と福河川下を橋で繋ぐとしても重要な橋脚を築かしていました。</p> <p>沖新田 倉田新田と寛文元年(1684)の最盛期の干拓の後、天明5年(1692)1月に津田水忠が沖新田の干拓に着手しました。永楽は埋込工事や9つに分けて開墾させる形で一斉に行い、約半年で工事を完了。翌年12月には用水路や橋門、遊水池等すべての工事を完成しました。</p> <p>面積は約1,900haで、江戸時代における国内で最大級の規模となりました。徳川幕府は沖新田の延宝藩として編成され、延宝6年(1709)に備前に移転されました。</p>
 <p>凡例 ✕ : 設置位置</p>		

唐人塚古墳

設置位置		表示内容
所在地	岡山市中区賞田376付近	